

中国の石油と天然ガス

神原達 著

はじめに

目 次

第1章

中国の石油・天然ガス産業の発祥と展開 —その歴史的経緯

- 1 中華人民共和国の成立と石油産業の発祥 4
- 2 大慶油田の発見と「会戦方式」による開発 20
- 3 「自力更生」政策での石油産業の展開 36
- 4 対外開放期の石油・天然ガス産業の発展 14

第2章

中国の石油・天然ガス産業の現状 —その上流部門から下流部門まで

1	中国の堆積盆地と石油・天然ガスの資源量	54
2	石油探鉱・開発と原油生産の推移	65
3	外国石油企業の協力による海洋石油開発	103
4	石油に比べて遅れた天然ガスの開発	118
5	新しい石油・天然ガス資源を求めてタリム盆地の探鉱	135
6	「西気東輸」計画とLNG基地などの各種石油・ガス設備の建設	
7	状況変化に対応を迫られる石油精製産業	163
8	石油配給制で発展が遅れた石油流通システム	180
		150
1	中国の石油・天然ガス産業の将来	
2	石油・天然ガスの生産見通し	196
3	国内供給が不足する石油・天然ガスの輸入見通し	210
3	石油・天然ガス産業の発展見通し	223

図表目次

表
1

初期における中国の石油供給量（一九四九～六〇年）：	13
大慶原油の生産量と全国石油生産量に占める比率：	43
中国の主要堆積盆地の石油資源量、埋蔵量、生産量（一九九四年時点）：	59
中国の主要堆積盆地の天然ガス地質資源量（一九九四年時点）：	59
大慶油田の原油生産量、天然ガス生産量と全国原油生産量（一九九一～二〇〇一年）：	74
遼河油田の原油・天然ガス生産量：	83
新疆油田の原油・天然ガス生産量：	88
勝利油田の原油・天然ガス生産量：	94
中国の原油・天然ガス生産量（二〇〇〇年、二〇〇一年）：	98
中国海域での物理探査と試掘井数（一九八四～九八年）：	113
タリム盆地で発見された油田・ガス田：	144
中国の地域別天然ガス需要量予測：	153
天然ガス供給計画地域内のユーザ別需要量（中国石油の対象地域）：	153

図
1

中国の主要製油所の精製規模と形態分類…	168
中国の製油所の設備構成比率（一九九九年末）…	15
中国の原油および各種石油製品需要見通し…	14
中国の石油需給と輸入見通し…	17
初期中国の石油地図…	1
大慶長垣の油田図…	22
大慶油田の原油生産量…	42
中国の石油産業組織図（一九九八年）…	50
中国の堆積盆地図…	55
中国の石油資源図…	62
中国の石油企業図…	67
大慶油田および吉林油田図…	70
遼河油田…	76
勝利油田図…	81
中国の原油生産量の推移…	100
中国海域の油田・ガス田およびパイプライン図…	121
四川盆地の天然ガスパイプライン図…	108

23	22	21	19	18	17	16	15	14
オルドス盆地の油田・ガス田・パイプライン図 :								123
中国の天然ガスパイプライン図 :							129	
タリム盆地の「庫車・塔北ガス区」図 :							143	
タリム盆地の油田・ガス田分布図 :							146	
中国北西部の石油・天然ガス関連図 :							147	
広東省LNG受入基地、パイプライン敷設予定図 :							159	
中国における二〇〇〇年時点の石油製品の流通段階 :							159	
中国の石油確認原始埋蔵量の年間発見量 :				199				
中国の石油資源量から予測される原油生産量 :				202				
中国の原油生産予測とそれに影響を及ぼす諸要因 :				204				189

中国の石油と天然ガス

著者紹介

かんばらたつ
神原達(KAMBARA Tatsu)

- 1936年 東京生れ
1962年 早稲田大学第一文学部史学科東洋史専攻卒業
1962～65年 外務省特別研究員(在インド日本国大使館所属), インド国際問題研究所(IISS)(デリー大学大学院)特別学生, 在ネパール王国, ネパールの近・現代史を研究
1966年 石油資源開発(株)入社, 海外本部契約課勤務
1967年 インドネシア, 東カリマンタン, バリックバパン市に開設の同社鉱業所勤務
1968年 インドネシア石油開発(株)企画室勤務
1969年 石油開発公団(現, 石油公団)に移籍, 総務部調査課勤務
1972～75年 同公団, ロンドン事務所勤務
1975～87年 石油公団, 企画調査部, 調査第一課長, 第二課長, 次長を歴任し, OPECによる「石油危機」の当時の国際石油情勢の調査を行う。また総務部次長として「石油公団20年史」を編纂。
1987～91年 アジア経済研究所に出向, 中東産油国の石油情勢, 中国の石油問題を調査
1991年 石油公団審議役(国際石油問題分析担当)
1992年 石油公団退職, (財)日本エネルギー経済研究所入所, 国際協力プロジェクト部研究主幹として, 主として中国, ロシア(シベリア)の石油・天然ガス問題を調査
1999年 同所退職, 現在は独立した石油問題コンサルタントとして活動中

(主要著書)

- 「ネパールの歴史と社会」(『外務省調査月報』1966年)
「中国の石油産業」(『石油開発時報』石油鉱業連盟, 1974年)
『東南アジアの石油産業——現状と将来』(共著, アジア経済研究所, 1981年)
『中国の石油産業』(編, アジア経済研究所, 1991年) その他多数

中国の石油と天然ガス

アジアを見る眼 103

2002年12月18日発行©

ISBN 4-258-05103-9 C1233

著者 神原 達

発行所 日本貿易振興会アジア経済研究所
千葉市美浜区若葉3-2-2 ☎ 261-8545
研究支援部 電話 043(299)9735(販売)
FAX 043(299)9736(販売)
E-mail:syuppan@ide.go.jp http://www.ide.go.jp

印刷所 株式会社 三陽社 カバーデザイン 長峰亜里

落丁・乱丁はお取替え致します

無断転載を禁ず

「アジア文庫セレクション」シリーズ刊行にあたって

我已知曉，但不知何處可尋。我欲向人求教，又不知誰能解我之難。我欲向人求教，又不知誰能解我之難。

（三）在於此，我以為我們的社會上，應該有個「社會主義的知識分子」的組織，來研究社會問題，並為社會問題發聲。

其後有子曰玄，字子房，人稱張良。良少好學，善辭賦，與淮陰侯韓信、蕭何並稱漢室三杰。

卷之三